

平成25年度第1回千葉市社会福祉審議会  
高齢者福祉・介護保険専門分科会議事録

1 日 時：平成25年8月26日（月） 午後7時00分～午後9時00分

2 場 所：千葉市総合保健医療センター 5階 大会議室

3 出席者：

(1) 委員

畔上加代子委員、瓜生澄江委員、尾崎誠明委員、金親肇委員、金子充人委員、  
岸岡泰則委員、清水伸一委員、高梨茂樹委員、高野喜久雄委員、武岡和枝委員、  
中田緑委員、中溝明子委員、西尾孝司委員、広岡成子委員、星野恵美子委員、  
布施貴良委員、松崎泰子委員、三宅康彦委員 (定員20名中18名出席)

(2) 事務局

白井高齢障害部長、鳩川高齢福祉課長、富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長、  
小川高齢施設課長、須田介護保険課長、大塚地域福祉課長、島津住宅政策課長、  
山中健康保険課長、角田健康支援課長、神崎健康企画課長、桜井生涯学習振興課長補佐、  
他担当職員等

(3) 傍聴者

1人

4 議 題：

- (1) 会長の選出及び職務代理の指名について
- (2) 平成24年度介護保険事業の運営状況について
- (3) 次期高齢者保健福祉推進計画（介護保険事業計画）の策定に係る実態調査について
- (4) 千葉市介護支援ボランティア制度について
- (5) 認知症疾患医療センターの運営状況について
- (6) その他

5 議事の概要：

- (1) 会長の選出及び職務代理の指名について  
委員の互選により、会長に松崎委員、職務代理者に清水委員が選出された。
- (2) 平成24年度介護保険事業の運営状況について  
「資料1」に基づき、事務局の説明後、質疑を行った。
- (3) 次期高齢者保健福祉推進計画（介護保険事業計画）の策定に係る実態調査について  
「資料2」、「参考資料」に基づき、事務局の説明後、質疑を行った。
- (4) 千葉市介護支援ボランティア制度について  
「資料3」に基づき、事務局の説明後、質疑を行った。
- (5) 認知症疾患医療センターの運営状況について  
「資料4」に基づき、事務局の説明後、質疑を行った。

## 6 会議経過

### 【大塚介護保険課長補佐】

定刻となりましたので、ただ今から平成25年度第1回千葉市社会福祉審議会高齢者福祉・介護保険専門分科会を始めさせていただきます。

本日は、ご多忙中のところご参集いただきまして、大変ありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、介護保険課の大塚でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議であります、委員総数20名のうち、18名のご出席をいただいておりますので、当会議は成立しておりますことをご報告いたします。

また、本日の会議は、千葉市情報公開条例第25条の規定に基づき、公開することといたしますので、ご了承ください。

それでは、まず初めに、高齢障害部長の白井より皆様にご挨拶申し上げます。

### 【白井高齢障害部長】

こんばんは。高齢障害部長の白井でございます。

委員の皆様方には、大変お忙しい中、本日の会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また日頃から、保健福祉行政はもとより、市政各般にわたりまして多大なるご支援、ご協力を賜っておりますこと、心よりお礼申し上げます。皆様もご承知のように、社会保障制度改革などの新聞報道もございますが、今月の21日に政府が閣議決定した社会保障制度改革の工程表として位置付けておりますプログラム法案でございますが、その骨子は社会制度改革国民会議の報告をもとに作られたものでございます。特に介護分野では、一律1割となっている介護サービス利用料で一定以上の所得者について2割に引き上げることや、要支援を介護保険対象からはずす、ということで、これは介護予防・日常生活総合支援事業という形です。すでに全国でも20前後程度で実施しているところもありますが、なかなか基盤整備の面でやってもやらなくてもよいというものでこれを踏み込む方向ということと、また今日の朝刊だと特別養護老人ホームの入所の厳格化ということで、今まで要介護1で入所できたのが、要介護3以上の方に限定するという記事もでていまして、いずれも平成27年、2015年からの施行を目指すといわれております。いろいろな意見もあって、まだ現実的にどうなるかわからないところもありますが、本市としてはこれらの見直しも利用者、事業者、保険者サイドのどこをとっても大きな影響がでることとございますので、国の動きを注視しながら適切に対応していかなければならないと思っております。また、いろいろ情報があれば皆様方にもお示ししていきたいと思っております。

本日の分科会でございますが、会長及び職務代理の指名をお願いするほか、介護保険の運営状況、来年度予定しております次期高齢者保健福祉推進計画を策定するための基礎資料を収集するための基礎調査、いわゆる実態調査でございますが、その概要等についてご審議いただくこととしております。皆様方には豊富な経験と専門的な立場から忌憚のないご意見を賜りますことを申し上げまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

### 【大塚介護保険課長補佐】

続きまして、本日は本年6月の任期満了に伴う改選後の第1回目の会議となりますので、委員の皆様方のご紹介をさせていただきます。恐れ入りますが、呼びいたしましたらその場でご起立をお願いいたします。

(自己紹介)

### 【大塚介護保険課長補佐】

なお、本日都合により欠席されております2名の方ですが、斎藤博明委員、平山登志夫委員でございます。

皆様ありがとうございました。事務局職員につきましては、時間の都合上、お手元にお配りしております席次表にて紹介に代えさせていただきます。

それでは、これより議事に入らせていただきますが、さきほど申し上げたとおり、本日は改選後初めての会議となりますことから、会長を選出していただくこととなります。そこで、事務局から仮議長を立て、会長選出にかかわる議事を進行することとし、白井高齢障害部長が仮議長を務めさせていただきますことにします。

**【白井高齢障害部長】**

それでは、会長が選出されるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。会長の選出につきましては、千葉市社会福祉審議会運営要綱第2条第2項により、委員の互選により定めとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

(高梨委員による挙手)

はい、高梨委員。

**【高梨委員】**

会長には、福祉の分野に造詣が深く、前任期においても会長を務められた、松崎泰子委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

**【白井高齢障害部長】**

ただ今、高梨委員から会長には松崎委員に、というご提案がございましたが、皆様の拍手を持ってということで、よろしいでしょうか。

(松崎委員、了承)

どうもありがとうございました。それでは、松崎委員さんに会長をお願いしたいと存じます。ここからは、会長さんに議事の進行をお願いしたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

**【大塚介護保険課長補佐】**

それでは、松崎会長には会長席にお移りいただき、就任のご挨拶をいただければと思います。

**【松崎会長】**

第5期の計画の時に、いろいろ議論を詰めたことが、第6期の計画の時にいよいよ実施に入るのか、と非常に介護保険にとっては大きな転換期というふうに思いまして、皆様のご推薦をいただきましたので、たいへん不足ではございますが、就任をさせていただきますと思います。どうぞよろしく願いいたします。ただ今、白井部長のほうからも、昨今の動向についてもご紹介がありましたが、第6期計画はまさにこの2年間にかかっていると思います。いろいろな介護の現場やいろいろな施策に詳しい専門家がいらっしゃいますので、ぜひ協力してよりよい千葉市の総合的な高齢者福祉、介護保険の施策をすすめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【大塚介護保険課長補佐】**

ありがとうございました。今後の議事進行は、松崎会長にお願いすることといたします。まず会長職務代理のご指名をいただき、その後は次第に沿って議事を進めていただきたいと存じます。

それでは、よろしくお願ひいたします。

**【松崎会長】**

それでは、議事に入らせていただきます。まず、会長職務代理につきましては、千葉市社会福祉審議会運営要綱第2条第4項の規定により、会長が指名することとされております。私といたしましては、福祉の専門家であり、長年にわたり、千葉市の保健福祉行政にご尽力してこられた、千葉市老人福祉施設協議会会長の清水伸一委員にお願いしたいと思ひます。

清水委員、いかがでしょうか。

**【清水委員】**

はい。

**【松崎会長】**

よろしくお願ひいたします。

早速ではございますが、職務代理の就任ということで、一言お願ひしたいと思ひます。

**【清水職務代理】**

ただ今、ご指名いただきました老施協の清水でございます。過分なご紹介をいただきましたけれども、さきほど白井部長さんからは改革期、松崎会長さんからは転換期、というお話がございました。その中で、微力ながらも一員として皆様の仲間に入ることができ、閉会後もお付き合いさせていただきたいと思ひますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

**【松崎会長】**

ありがとうございました。

続きまして、議題2の「平成24年度介護保険事業の運営状況について」で、事務局からご説明お願ひいたします。

**【須田介護保険課長】**

〔 資料1 第5期介護保険事業計画の実施状況 〕 説明

**【松崎会長】**

はい、ありがとうございました。ただ今の説明に対しまして、ご質問、ご意見等がございますでしょうか。

**【畔上委員】**

資料1の右のページの定期巡回と夜間訪問介護ですが、利用者の中にはお一人暮らしの世帯数はどれくらいいらっしゃるのですか。

**【小川高齢施設課長】**

世帯数までは把握してないのですが、7月現在ではございますが、定期巡回を利用されている方が19人となっております。

**【畔上委員】**

把握していただきたいとは思いますが、なぜ、このような質問をしているかということ、今きちっと定着してないから、またケアマネさんがあまりご存じないから、という説明がございましたけれども、うちに来ている方の話を聞きますと限度額がもういっぱい、ということで利用してない方もいらっしゃるのですが、そのような状況はご存じですか。

**【小川高齢施設課長】**

確かに、その話は聞いておりますけれども、これは定額のサービスであり、訪問サービスを利用して上限に対しある程度余裕があると聞いておりますので、使い勝手等も周知が必要と考えております。

**【畔上委員】**

わかりました。

**【松崎会長】**

畔上委員の一番知りたいことは、一人暮らしでいるかどうか、世帯での把握とはぜんぜん違うのですね、暮らしている状況が。そういうことをきちんと把握しているのかどうか、とのご質問だったと思います。

他に何かご質問ありますでしょうか。

**【布施委員】**

平成24年度の要介護認定者が約3万人、サービス利用者が約2万5千人、ということですが、要介護認定を受けられている方でサービスを受けていない方については、どのような形で把握されているのか。

**【松崎会長】**

申請しても、認定されても、具体的に利用に至らない人もいる、と。数字はでていてしょうか。

**【須田介護保険課長】**

私は以前、区の介護保険室にいた経験から申し上げますと、例えば認定を受けた方で、安心のために認定をとりあえず受けておこうという方が中にはいらっしゃいます。そういう方が認定を受けて、軽度の認定を受ける方がいて、その方は認定を受けたけれどもサービスは利用しなくても自分でなんとかなるから、というような自分に保険をかけるために、認定を受けている方がいます。また、要支援の方については、住宅改修のために認定を受けて、その後はサービスを受けずに認定の更新だけをする方もいる。あるいは、通所介護でみんなとサービスを受けるのが嫌だ、とかなかなかサービスを利用しない方もいると思います。そういう方には、ケアマネの方や近くの民生委員からいろいろ情報が入りますので、どうしても介護がないとやっていけないという方については、区の高齢福祉の担当職員が伺って、認定を受けているようだがご不自由はないですか、とかサービスを利用するためにケアマネさんに相談したらどうですか、とそのような形でサービス利用について勧めているところです。

**【布施委員】**

実際には、介護が必要で介護認定を受けているがサービスを利用されてない方については、いろんなケースがあると思いますので、やはり実態を把握しながら対応していく必要があると思います。

**【松崎会長】**

ありがとうございました。その他には何かありますでしょうか。

**【星野委員】**

2ページの介護予防事業について伺います。基本チェックリストを実施した方は計画よりも上回って、みなさん関心があって受けられたと思うのですが、二次予防の対象者が少なかったということはみなさん元気だったということによろしいのでしょうか。そして、それに対して予防事業参加者が当初計画の65.1%と書いてありますが、魅力ある介護予防事業に行くとか、認知症にならないようにいろんな活動しようとするなどで、この介護予防事業の参加に含まれていると思うのですが、65.1%の評価はどのようにお考えでしょうか。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

介護予防事業につきまして、まず基本チェックリストの実施者数については確かに計画値を上回りまして、この中で二次予防事業対象者以外の方、いわゆる一般高齢者、元気な高齢者ということで解釈していただいて間違いないと思います。そして、二次予防事業の参加者数ですけれども、こちらはかねてよりなかなか参加者数が伸びないということ、わたくしどもは課題と考えております。参加しやすい環境を作ろうということで、スポーツクラブのようところで、介護と一見結びつかないようなところで事業を行ったりとか、あんしんケアセンターのほうから訪問によりまして直接お顔を見ながら介護予防の必要性などをお話させていただくなどを行いまして、数値はだいぶ伸びてきましたけれども、まだ少ないということで今年度は会場のほうに送迎を試みてみるなど、新しい企画も打っていますので、この結果や成果などを検証しながら進めてまいりたいと思っております。

**【星野委員】**

ありがとうございます。調査に参加はされているので、関心はあるというふうに思われるのですが、今言われたようにその場所に行くなどの環境もあると思うので、送迎バスなどもいろいろと計画されているようですので期待しています。

**【西尾委員】**

人材の問題で、現在の人材の充足状況というか、逼迫状況というか、今どのような状況にあるとお考えでしょうか。

**【須田介護保険課長】**

人材につきましては、今期の介護保険事業計画でも何人くらいと見込みを立てているところではございます。毎年調査している状況ではないのですが、市内で5千数百人の介護従事者がいらっしやっただと考えられています。そして、今後団塊の世代が75歳に達する状況になりますと1万人を超える人材が必要になるということで、倍程度で増えていかないと追いついていかない状況になっていくと考えています。本市としましても、まずはホームヘルパー2級の取得に補助を出しまして、今年は2級から初任者研修という形で代わっておりますけれども、昨年度は50人の方に対して5万円か研修の費用の2分の1のいずれか低い方を補助するというようにしております。今年度につきましては、人数を100人ということで倍増させているところです。それで現在のところ、50数人の方が申請している状況です。

また、千葉県で人材育成の協議会というものを作っております。事業者の方と行政が集まって会議を開きまして、その中で人材育成のための知恵を出していただいています。たとえば、人材確保のために小中学生に対して啓発したり、地域の方、民生委員の

方に介護士の仕事について普及啓発するようなことを行いながら、介護職の確保に努めていきたいと考えております。

**【西尾委員】**

介護人材の定着・確保ということになると、養成と定着の問題ですよね、いくら養成してもザルで水をすくっていたのではみんな抜けてしまう。養成の部分で今おっしゃったことは非常に努力をされているのだらうと思います。定着率の問題ですとか、個別の事業所さんによって定着率が高いとか、低いとかもあり、そのような状況を具体的に定着率の把握とかはしていらっしゃらないのでしょうか。

**【鳩川高齢福祉課長】**

市では、指導監査というものを定期的実施しております。指導監査の項目の中で、職員の定着という項目がございます。ご指摘のように、短期間でお辞めになってしまう、というある程度職員処遇が悪い所も見受けられます。そのような施設につきましては、文書で改善するように求めまして、具体的にどのように改善するのかを求めています。さらに、その改善状況を確認する、というやり方をしております。

**【西尾委員】**

さきほどもあったように倍増させなければならない、というのは現状としては足りないという中で、具体的にどれだけ定着してくれるのか、というのが重要ですね。一方で、女性は出産、退職とどうしても一定の割合で抜けていく、なおかつ若者は減る中で倍増させる、その中で質を維持させることはたいへんなことだと思います。そのときに、定着してもらうためにどうしたらよいのかについて、いろんなノウハウもあろうかと思いますが、現場にお伝えいただければよいのかな、と思います。

**【松崎会長】**

清水先生、ちなみに施設としてはいかがでしょうか。

**【清水職務代理】**

はい、本日このような質問・指摘が出るとは思ってもいなかったのですが、直近で老協協のほうで調査をしております。後ほどお渡しできればと思います。畔上委員の発言に関連してでございますが、定期巡回・随時対応型訪問介護看護はとりわけ地域包括ケアシステムの軸になるものですね。私はいつも施設側サイドで仕事していますが、その一方で市民の視点ということでいえば、独居高齢者、あるいは老々世帯というのが急速に進んでいるという千葉市の実態もありますと、やはり重要な事業であると思います。しかし、参入がわずか2事業所、なおかつ数字を見ますとわずか2ケタ。これはここで議論することではないのですが、それは私たちにも責任があるのではないか、その一つが人材の問題であり、ご指摘のとおりだと思います。処遇の状況だけではなく、枯渇の状況はあると思います。有効求人倍率はおそらく千葉市の場合1.8倍は超えると思うのですが、やはり人材枯渇の状況は、市のほうでどのようなご認識なのか、と思います。また、お聞きしたのは、利用者さんの要介護度の状況ですね、どのような介護度で利用しているのか、やはり実態をきちんとみて、その上で第6期の計画を進めていけばよいと思います。

**【松崎会長】**

ありがとうございます。他に何か質問ありますでしょうか。はい、高梨委員。

**【高梨委員】**

質問ではなくて要望ですが、1点目は平成24年度の実施状況で、あまり計画より進ん

でない部分を中心に説明されてましたが、そのような原因等を口頭で説明し、できれば表の中のPlan、Do、Checkですね、Checkの中の分析・評価の部分を文章化して、さらに25年度以降計画通りでなかった部分を創意工夫して目標を達成していくか、の方向性を示せば委員さんもわかりやすく理解されるのかな、と思います。また、資料1の2ページですが、左右の表で計画と実績の表の作りを統一したほうがよいのでは、という要望でございます。

**【松崎会長】**

実施状況では、実績評価も合わせてコメントしていただければよかったのかな、ということでご提案がございました。合わせて書いていただければと思います。

それでは、次に進みたいと思います。議題の3、次期高齢者保健福祉推進計画（介護保険事業計画）の策定に係る実態調査について、でございます。事務局から説明お願いいたします。

**【鳩川高齢福祉課長】**

〔資料2 千葉市高齢者保健福祉推進計画（介護保険事業計画）策定に係る実態調査〕  
説明

**【松崎会長】**

はい、ありがとうございます。第6期計画に係る基礎調査ということで、たいへん種類が多い調査でございますが、ご質問はございますでしょうか。

**【西尾委員】**

この調査票をこの分科会で議論するということはあるのでしょうか。

**【鳩川高齢福祉課長】**

個別項目については、事務局に一任していただければと思います。

**【西尾委員】**

わかりました。また、いくつか質問ありまして、介護者調査のところでは、ぜひ入れていただきたいと思うのは、家族介護者の方が自分の家族についてどのようにお考えなのか、要介護者との関係です。本当に自分の存在が苦しいという家族的な関係性と、社会的な関係性が消えていったとき、それと自分の想いで自分の人生がコントロールできない想い、要するに自律の問題です。私の人生は私のものではない、と感じるのは家族関係か、社会関係か、自律か、将来への絶望感か、だいたいそのようなものですから、その関係性と自律と将来の3つの項目を入れていただくと、その方々の苦しみが見えてくるのかな、ということと、介護者がいるのかどうか、を入れていただきたい。自分だけで頑張っているのか、それともサポートがあるのか、そこは大きな差だろうな、と思います。あと、事業者の調査ですが、人材の状況、定着率、流動率、もし可能なら人件費比率がどのくらいであったか、働いている人に適正に配布されているのか、ということも可能であれば入れていただければと思います。

**【鳩川高齢福祉課長】**

ありがとうございます。介護者調査については、市としても、新たな事業として取り組まなければいけないもの、と考えています。すでにいくつかはやっています、より具体的に効果的な事業を展開したいと考えております。今、西尾委員がおっしゃられた内容を踏まえながら、調査ができればと考えております。具体的にこの場でこうする、とは

言えないのですが、意見をなるべく組み入れてやりたいと思います。それから、サービス事業者のほうですが、人件費比率の部分で申し上げますと、さきほど申し上げた指導監査の中で分析ができます。参考までに申し上げますと、社会福祉法人ですとだいたい55%のところが多いですかね、そういったものも市のほうで見えていますので、あまりにも人件費が安いとか、やはり指導監査の項目となってきます。それから、人材の状況についても、さきほども触れましたが、監査等で見ております。今回の調査等で可能であれば入れていきたいと思います。以上です。

**【松崎会長】**

ありがとうございます。はい、畔上委員。

**【畔上委員】**

今後、地域ケア会議の中でいろんなサービスのことが触れられたりして、地域、在宅が主な流れになっていくと思いますが、美浜区などでの高層の在宅の方で、入浴難民、自分の家にお風呂はあるが、掃除ができないということで入浴ができない方がいるということで、地域差によって美浜区と若葉区の問題は違うと思うのですね。あぶり出したときに、やはり地域ケア会議の中でできれば各区の推進事業ということで、少し交通整理していただけると対応できるのかな、と思います。例えば、花見川区では団地がありますので買い物難民の問題もありますし、今後とも方向付けとしてはそのような形であれば助かるのかな、と思います。

**【鳩川高齢福祉課長】**

今回24圏域、日常生活圏域ニーズということで把握するのですが、その中で特徴的なものがでてくるのかどうか、ということもあると思います。地域ケア会議というのは、かなり重要だと考えておまして、その中で問題を掘り起こしていると思います。そういった情報を利用していただいて、計画の中に反映させていくということもできると思います。必ずしもこの実態調査だけで行う、というものではなくて、いろんな情報収集した上で次期計画を策定していくという考えでございます。

**【松崎会長】**

ありがとうございました。いろんな貴重なご意見だと思います。せっかく膨大な調査をやりますので、ぜひ、地域包括ケア、あんしんケアセンター等となかなか地域のテーマを総合的に取るとはできないと思いますので、そういうところを活用できるようにしていただきたいと思います。

はい、布施委員どうぞ。

**【布施委員】**

調査票ですが、これをちょっと見ただけでも細かいので、これだけでも嫌になってしまふ。ましてや要介護の人や一人暮らしの人は答えるのが難しいと思います。言葉の使い方、漢字、もう少し字が大きくなるかな、と思います。ボリュームは増えると思いますが、少し工夫してもらいたいと思います。よろしくお願いします。

**【松崎会長】**

これは、たしかに隣にサポーターがいたり、家族がいたりとかしないと、最後まで答えられないかな、という感じですね。もう少し楽しく答えることができるような工夫していただければと思います。

**【鳩川高齢福祉課長】**

はい、120項目くらいありますので、創意工夫してやりたいと思います。

**【中溝委員】**

調査内容で、いくつか虐待に関する調査と書かれていますのですが、どのようにやるのかな、と想像がつかないのです。アンケート調査を高齢者が書いている横で、実際に虐待している家族がそれを見ていたなら、虐待あります、とは絶対に書けないと思います。同じ閉ざされた関係性の中で、それをどうやって把握しようとしているのか、いまいちわからなかったもので、どのように調査なさるのか教えていただければと思います。

**【松崎会長】**

虐待に係る調査ということで、これは5番目、6番目の調査の中に入っておりますが、いかがでしょうか。

**【鳩川高齢福祉課長】**

必要項目だということで、今ここに置いてあります。調査の内容、やり方ですが、これから詰めたと思います。おっしゃられたように、調査は非常に難しいとは思いますが、ただ、今後虐待については何らかの形で把握が必要であると思いますので、具体的にはこれから詰めたと思います。市としても、各区の保健福祉センターやあんしんケアセンターからは虐待の通報とかを確認しておりますし、虐待があった方の自宅へ行って認定とかきちんとやっておりますので、平成24年度では認定した数だけでも100件超えておりますので、今回は虐待の項目を設けさせていただきました。調査のやり方、工夫したいと思います。

**【松崎会長】**

一番右側の調査内容は、こういったものが必要だろうと挙げてきたものですよね、これから調査方法については既存の調査もありそれをまとめるとか、あるいは個別の調査に入れようとか、それはこれから考えるということですね。

**【鳩川高齢福祉課長】**

はい、細かな部分はこれから煮詰めていこうと思っております。

**【中溝委員】**

ありがとうございます。たぶん虐待が発生しているところの多くの方が、虐待をしているという認識がおそらくないと思うのです。ですから、虐待があるかないか、という調査は全く無意味で、虐待を発見する側のリスクがどれくらいあるのか、ハイリスクの家庭がどれくらいあるのか、ということを調査していかなければならないと思います。このあと、こういったものがリスク項目になるのか、アセスメントのようなものを市がやっていかなければならないと思いますので、そこからの作りをやらなければなりません。

**【鳩川高齢福祉課長】**

ありがとうございます。

**【松崎会長】**

以上で、実態調査については終わらせていただきますが、他に何かございましたら、事務局にお伝えしていただければと思います。

それでは、次は議題4、千葉市介護支援ボランティア制度について、でございます。事務局のほうからご説明をお願いいたします。

**【須田介護保険課長】**

〔 資料 3 千葉市介護支援ボランティア制度について 〕 説明

**【松崎会長】**

はい、ありがとうございます。何かご質問がございますでしょうか。はい、武岡委員。

**【武岡委員】**

ボランティアの登録をさせていただいておりますが、他に介護関係のこともやっておりますが、一言でいうと皆さん知らない、と言うのですね。そこから始まりまして、10月にまた研修があるということでよかったな、と思いますが、できないとか、やれないとか言う方が安心するような話の進め方がもっとしていただければと思います。7月から制度が開始したときに、「武岡さんが初めてです」、「他の方から電話ありません」と言われました。この制度はとてもいいものだと思いますので、もう少し一般の方にわかるように進めていけたらよいのでは、と思います。よろしくお願いします。

**【松崎会長】**

ありがとうございます。実際に介護支援ボランティアをやっている武岡さんからのご意見で、まだまだ周知が足りないということで、そして登録はしているけども実際に参加している人も増やしていければということですので、よろしくお願いします。まずシステムができあがりしましたので、これから広めていければと思います。

はい、中田委員。

**【中田委員】**

私の事業所のほうでも、30名程の方に担当から説明させていただいたところ、たった1名しか賛同が得られませんでした。というのは、この目的のところですが、「私たちの介護予防なのでしょ」と言われてしまいました。やはり長きに渡ってボランティアされてきた方たちなので、地域貢献の気持ちをもってやっている純粋な観点なのでですね。結果的に介護予防につながる、という流れであればよいのですが、この初めの冒頭で謳われてしまうと、この方たちが退いてしまい、その後の話が難航しています。ぜひ千葉市の方たちが、説明に伺ったときに結果として介護予防につながりますよ、みたいな目的にするのではなくて、志ある方の勧誘の仕方を工夫すれば語弊は生じないのかな、と思います。

**【松崎会長】**

ボランティアについては、それは大切なことですね。このパンフレットについては、どうですか。これはいいですね。手帳のところですかね、介護予防が目的のところを書いてあるからですね。やはり基本はボランティアというところですよ、そこらへんを工夫していただければと思います。

**【中溝委員】**

それと、ボランティア活動10か条を読ませていただいて、活動にけじめつけよう、けじめってなんだろう、活動を点検し、点検ってなんの点検するのだろう、なんだかよくわからないものを書いてある。もうちょっと他に何かないのかな、と思います。もうちょっと人権尊重するなど、考えていただけないかな、と思います。

**【松崎会長】**

10か条ですから、もう少し理念らしくということですね。ご意見ありがとうございます。

それでは、次に進みたいと思います。議題5の認知症疾患医療センターの運営状況について、でございます。事務局から説明お願いいたします。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

〔資料4 認知症疾患医療センターの運営状況について〕 説明

**【松崎会長】**

はい、ありがとうございます。何かご質問がございますでしょうか。はい、金親委員。

**【金親委員】**

薬剤師もこの協議会に1枚協力したいな、とっております。と申しますのは、高齢者の方、認知症の方は結構薬が残っている、もしかしたら薬の副作用ではないか、と感ずることがある。その時にケアカンファレンスが頻繁にもたれるなら、ケアマネージャーを中心として医師であり、看護師であり、薬剤師であり、介護に関係する人たちがそういう理念でやっていたら、うまくいくようにしていただきたいと思います。それから、千葉市薬剤師会としても、在宅医療の場合必要な医療給付の供給にかなり問題があると思うので、その件に関しても努力していますし、少しでも供給できるような体制を作りたいという活動しておりますので、協議会の中に薬剤師も入っていったほうが、より充実した協議会になるのではないのかな、と思います。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

はい、ありがとうございます。ご意見のとおりだと思います。在宅医療の連携の会議ですとか、地域ケア会議でも薬剤師会の先生方にはたいへんお世話になっているところでございます。今回の協議会につきましても、早速、認知症疾患医療センターのほうへ提言いたしまして、ぜひご協力いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**【清水職務代理】**

認知症医療連携協議会、私も出させていただいておりますが、国のオレンジプランがもう第2ステージに進んでいます。その中で他の市町村、あるいは都道府県で執行している事例として認知症ケアパスというものがありまして、これはご家族がどうなっているのかという、何度も何度も同じことを聞かれてものすごく負担感を感じている、という生の声を聞きます。認知症ケアパスの確立というテーマを入れていただきたい、というのと、認知症コーディネーターが協議会に入っていない理由が何かありましたらお願いします。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

まず、認知症連携ケアパスですが、患者がご自身の身体状況などを書いたものとか、ドクターのご意見などを集約したもので、どこに行ってもそれが基礎情報として共有されるもの、というお話だと思います。それにつきましては、今千葉県のほうで内容等を検討しているところでございまして、その内容に対しまして認知症医療連携協議会でも議論をする、と前回の協議会のときにお話させていただきまして、これから検討しまして千葉県のほうに提言させていただこうと考えているところです。有効性を見極めて、千葉市でも導入の検討をしていくことを考えているところでございます。それから、認知症コーディネーターの話がでましたが、千葉県のほうでモデル研修を開始するというので、千葉市からも認知症疾患医療センターからはもちろんのこと、あんしんケアセンターのほうにもご希望を募らせていただきまして、研修を受けて、モデル研修ということで、その研修内

容も意見を述べるチャンスがある、と聞いておりますので、市の方からも積極的に参加していきたいと考えているところでございます。

**【松崎会長】**

ぜひとも、この会へのフィードバックも含めて、ご報告いただければと思います。はい、高梨委員。

**【高梨委員】**

この医療センターの法的な性格、位置付けはどのようなものでしょうか。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

厚生労働省が全国に普及させたいということで行っている事業でございます。千葉市も厚労省のほうに事業実施をお願いでているもので、千葉市からの委託事業でございます。

**【高梨委員】**

これは介護特会ですか。一般財源ですか。

**【富田高齢福祉課介護予防・認知症担当課長】**

一般財源と、国からの補助でございます。

**【高梨委員】**

はい、わかりました。ありがとうございました。

**【松崎委員】**

はい、かなり活発ないろいろご意見等をいただきまして、ありがとうございました。以上で、認知症疾患医療センターについて終わります。次回も続けてご報告いただきたいと思います。

最後に、その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

**【須田介護保険課長】**

今回は、具体的な日程は決まっておりますが、来年の3月を予定しております。

**【松崎会長】**

以上で本日の議案、案件は終了いたしました。たいへん活発なご意見、ご協力いただきましてありがとうございました。本日の会議の議事録につきましては、各委員にご確認いただき取りまとめさせていただきます。それでは、平成25年度第1回高齢者福祉・介護保険専門分科会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

[ 終 了 ]

**【連絡先】**

保健福祉局 高齢障害部

介護保険課 管理係

TEL : 043-245-5064

FAX : 043-245-5623